

## 2022年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年11月10日

東

上場会社名 株式会社CRI・ミドルウェア 上場取引所  
 コード番号 3698 URL <https://www.cri-mw.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 押見 正雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 田中 克己 (TEL) 03-6823-6853  
 定時株主総会開催予定日 2022年12月22日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 2022年12月23日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年9月期の連結業績(2021年10月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期	2,840	△1.8	97	△65.8	138	△58.7	△339	—
2021年9月期	2,892	23.1	284	△37.8	335	△26.7	199	△46.6
(注) 包括利益	2022年9月期		△316百万円(—%)		2021年9月期		228百万円(△38.0%)	

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年9月期	△62.23	—	△9.1	2.6	3.4
2021年9月期	36.71	36.56	6.0	6.3	9.8

(注) 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期	5,016	3,536	69.7	641.16
2021年9月期	5,532	3,961	71.1	720.58
(参考) 自己資本	2022年9月期	3,498百万円	2021年9月期	3,932百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年9月期	23	△527	△97	3,317
2021年9月期	546	△39	31	3,893

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2021年9月期	—	0.00	—	20.00	20.00	109	54.5	2.8
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

(注) 2021年9月期期末配当金の内訳 記念配当 20円00銭

## 3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	3,200	12.6	300	207.9	300	116.6	216	—	39.58

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期	5,578,150株	2021年9月期	5,578,150株
② 期末自己株式数	2022年9月期	121,377株	2021年9月期	121,315株
③ 期中平均株式数	2022年9月期	5,456,791株	2021年9月期	5,438,866株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の要因に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) .....	13
(会計方針の変更) .....	13
(セグメント情報等) .....	14
(1株当たり情報) .....	16
(重要な後発事象) .....	16

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、資源高の影響などを受けつつも、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進むとで、企業収益は全体として高水準で推移し、業況感は横ばいとなっており、基調としては持ち直しております。

当社グループを取り巻く事業環境については、新型コロナウイルス感染症の影響によりライフスタイルが大きく変容し、ボイスチャットやWeb会議ツールなどオンラインコミュニケーションツールの活用は常態化しております。また、メタバースと呼ばれる仮想空間が注目を集めるとともに、テレワークやオンライン授業、ライブコマースなど、さまざまな分野でデジタル変革が進行しており、音声・映像を活用したオンラインサービスへの要求水準も高度化してきております。

これらの状況下、当社グループは、オンラインコミュニケーションプラットフォーム「CRI TeleXus（シーアールアイ テレックス）」の開発を行うとともに、今後成長が見込める事業、市場を見据えた研究開発体制を整備し、事業基盤の拡大、グループシナジーの創出に注力いたしました。

当連結会計年度の業績は、売上高2,840,897千円（前期比1.8%減）、営業利益97,424千円（前期比65.8%減）、経常利益138,506千円（前期比58.7%減）となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は、特別損失の計上により339,600千円（前期は199,702千円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

セグメント毎の経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ゲーム事業

当社製ミドルウェア「CRIWARE（シーアールアイウェア）」等のライセンス売上は、第1四半期において大手顧客からの一括ライセンス契約の受注があったものの、スマートフォン向けF2P売上減等により、国内は減少いたしました。また、海外は、中国におけるロックダウンの影響等によるコンテンツ制作の受注減が響き、減少いたしました。株式会社ツーフাইブが行う音響制作は、第3四半期で大型案件を受注したこと等により、増加いたしました。株式会社アールフォース・エンターテインメントが行うゲーム開発/運営は、当第4四半期に新規案件の売上が計上されたものの、既存アプリ運営の赤字幅増加により、増収減益となりました。当セグメントの売上高は2,164,074千円（前期比0.4%増）、セグメント利益は153,762千円（前期比52.6%減）となりました。

#### ② エンタープライズ事業

組込み分野は、モビリティがライセンス売上・開発案件ともに引き続き好調に推移したことに加え、コロナ禍で止まっていたカラオケ案件が始動し始めるなど事業環境は好転しているものの、ネットワーク組込みシステム開発の大規模フェーズ終了の影響が大きく、減少いたしました。新規分野は、オンライン上でコミュニケーションを行うゲーム開発者交流イベントやファンエンゲージメント向上に寄与するシステムなど、複数案件を受注し新たな可能性を開拓したものの、前期第1四半期にあったデジタル展示会プラットフォーム「CRI DXExpo（シーアールアイ ディーエックスエキスポ）」の大口売上がなくなった影響が大きく、減少いたしました。当セグメントの売上高は676,822千円（前期比8.2%減）、セグメント損失は56,338千円（前期は40,000千円のセグメント損失）となりました。

### (2) 当期の財政状態の概況

#### ① 資産の部

当連結会計年度の資産の部は、前連結会計年度末に比べて515,651千円減少し、5,016,660千円となりました。これは主に、「現金及び預金」の減少（前連結会計年度末に比べて575,386千円の減少）、「その他流動資産」の減少（前連結会計年度末に比べて50,232千円の減少）及び「投資その他の資産」の減少（前連結会計年度末に比べて167,003千円の減少）があった一方、「売掛金及び契約資産」の増加（前連結会計年度末に比べて112,012千円の増加）、「有形固定資産」の増加（前連結会計年度末に比べて75,398千円の増加）及び「無形固定資産」の増加（前連結会計年度末に比べて99,812千円の増加）によるものであります。

#### ② 負債の部

当連結会計年度の負債の部は、前連結会計年度末に比べて90,135千円減少し、1,480,446千円となりました。これは主に、「未払法人税等」の減少（前連結会計年度末に比べて43,082千円の減少）、「その他流動負債」の減

少（前連結会計年度末に比べて81,728千円の減少）及び「賞与引当金」の減少（前連結会計年度末に比べて11,220千円の減少）があった一方、「買掛金」の増加（前連結会計年度末に比べて48,779千円の増加）によるものであります。

### ③ 純資産の部

当連結会計年度の純資産の部は、前連結会計年度末に比べて425,516千円減少し、3,536,213千円となりました。これは主に、「親会社株主に帰属する当期純損失」の計上及び配当金の支払いによる「利益剰余金」の減少（前連結会計年度末に比べて448,736千円の減少）及び「その他有価証券評価差額金」の減少（前連結会計年度末に比べて8,100千円の減少）があった一方、「為替換算調整勘定」の増加（前連結会計年度末に比べてそれぞれ23,500千円の増加）によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ575,787千円減少し、3,317,767千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動の結果得た資金は23,320千円(前連結会計年度は546,151千円の獲得)となりました。これは主に、減価償却費の計上131,792千円及び減損損失の計上217,324千円並びに投資有価証券評価損の計上215,799千円の資金の増加要因があった一方、税金調整前当期純損失の計上314,937千円、売上債権の増加額106,209千円及びその他流動資産の増加額24,418千円並びに法人税等の納付額90,146千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動により使用した資金は527,021千円(前連結会計年度は39,878千円の支出)となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出98,761千円、有形固定資産の取得による支出87,986千円及び無形固定資産の取得による支出344,774千円並びに敷金及び保証金の差入による支出13,400千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動により使用した資金は97,013千円(前連結会計年度は32,070千円の獲得)となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出96,925千円の資金の減少要因があったことによるものであります。

	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
自己資本比率(%)	69.9	71.1	69.7
時価ベースの 自己資本比率(%)	178.2	152.0	103.0
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率(%)	—	—	—
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値を用いて計算しております。

2. キャッシュ・フロー対有利子負債比率については、上記いずれの期においても期末の有利子負債残高が存在しないため、記載しておりません。

3. インタレスト・カバレッジ・レシオについては、上記いずれの期においても有利子負債が存在せず利払いがないため、記載しておりません。

#### (4) 今後の見通し

今後のわが国経済は、見通し期間の中盤にかけては、資源高や海外経済減速による下押し圧力を受けるものの、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が和らぐもとで、回復していくとみられております。その後は、所得から支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強まるもとで、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられております。

このような状況におきまして、当社グループは、引き続き、今後成長が見込める事業、市場を見据えた研究開発体制を整備し、事業基盤の拡大、グループシナジーの創出に注力いたします。

次期は、オンラインコミュニケーションプラットフォーム「CRI TeleXus（シーアールアイ テレクサス）」および「モビリティビジネス」への技術開発に重点的に投資を行います。

当社グループの次期の連結業績の見通しにつきましては、以下のとおりです。

	通期	(前期比)
売上高	3,200百万円	12.6%増
営業利益	300百万円	207.9%増
経常利益	300百万円	116.6%増
親会社株主に帰属する当期純利益	216百万円	—

#### (5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を考慮し、当面においては日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、今後のIFRS(国際財務報告基準)の採用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,891,477	3,316,090
売掛金及び契約資産	518,960	630,973
商品	4,040	4,063
仕掛品	8,908	18,228
その他	105,068	54,835
貸倒引当金	△492	△20,087
流動資産合計	4,527,963	4,004,103
固定資産		
有形固定資産		
建物	49,217	125,852
減価償却累計額	△24,040	△14,577
建物(純額)	25,176	111,274
工具、器具及び備品	82,033	116,867
減価償却累計額	△62,786	△67,479
工具、器具及び備品(純額)	19,247	49,387
建設仮勘定	40,839	—
有形固定資産合計	85,263	160,661
無形固定資産		
ソフトウェア	261,398	368,833
のれん	20,507	13,856
その他	971	—
無形固定資産合計	282,877	382,689
投資その他の資産		
投資有価証券	365,688	239,794
繰延税金資産	60,696	84,032
その他	209,822	145,377
投資その他の資産合計	636,207	469,204
固定資産合計	1,004,348	1,012,556
資産合計	5,532,311	5,016,660

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	59,748	108,527
未払法人税等	63,786	20,704
賞与引当金	11,220	—
その他	249,523	167,794
流動負債合計	384,279	297,027
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,000,000	1,000,000
退職給付に係る負債	120,905	129,898
役員退職慰労引当金	61,883	53,229
繰延税金負債	3,513	291
固定負債合計	1,186,302	1,183,419
負債合計	1,570,582	1,480,446
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	784,904	784,904
資本剰余金	825,290	825,290
利益剰余金	2,482,532	2,033,795
自己株式	△167,943	△168,031
株主資本合計	3,924,783	3,475,959
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,100	—
為替換算調整勘定	△773	22,727
その他の包括利益累計額合計	7,326	22,727
新株予約権	11,052	10,842
非支配株主持分	18,566	26,684
純資産合計	3,961,729	3,536,213
負債純資産合計	5,532,311	5,016,660

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	2,892,550	2,840,897
売上原価	1,430,085	1,493,363
売上総利益	1,462,465	1,347,534
販売費及び一般管理費	1,178,001	1,250,109
営業利益	284,463	97,424
営業外収益		
受取利息	1,890	1,833
受取配当金	7,327	7,955
為替差益	495	24,009
補助金収入	41,041	7,961
その他	6,700	5,649
営業外収益合計	57,456	47,409
営業外費用		
事務所移転費用	—	5,935
社債発行費	5,821	—
その他	370	392
営業外費用合計	6,191	6,327
経常利益	335,728	138,506
特別損失		
減損損失	13,753	217,324
投資有価証券評価損	—	215,799
固定資産圧縮損	30,971	—
その他	—	20,319
特別損失合計	44,725	453,443
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	291,002	△314,937
法人税、住民税及び事業税	78,602	48,038
法人税等調整額	3,784	△26,557
法人税等合計	82,386	21,480
当期純利益又は当期純損失(△)	208,615	△336,418
非支配株主に帰属する当期純利益	8,913	3,182
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	199,702	△339,600

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
当期純利益又は当期純損失(△)	208,615	△336,418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,305	△8,100
為替換算調整勘定	7,756	28,436
その他の包括利益合計	20,062	20,336
包括利益	228,678	△316,081
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	218,445	△324,199
非支配株主に係る包括利益	10,232	8,117

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	758,426	798,812	2,282,830	△167,943	3,672,125
当期変動額					
新株の発行	26,478	26,478	—	—	52,956
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	—	—	199,702	—	199,702
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	26,478	26,478	199,702	—	252,658
当期末残高	784,904	825,290	2,482,532	△167,943	3,924,783

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△4,205	△7,210	△11,416	12,157	8,334	3,681,200
当期変動額						
新株の発行	—	—	—	—	—	52,956
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	—	—	—	—	—	199,702
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	12,305	6,437	18,743	△1,104	10,232	27,871
当期変動額合計	12,305	6,437	18,743	△1,104	10,232	280,529
当期末残高	8,100	△773	7,326	11,052	18,566	3,961,729

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	784,904	825,290	2,482,532	△167,943	3,924,783
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△109,136	—	△109,136
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	—	—	△339,600	—	△339,600
自己株式の取得	—	—	—	△87	△87
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	△448,736	△87	△448,824
当期末残高	784,904	825,290	2,033,795	△168,031	3,475,959

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	8,100	△773	7,326	11,052	18,566	3,961,729
当期変動額						
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△109,136
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	—	—	—	—	—	△339,600
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△87
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△8,100	23,500	15,400	△210	8,117	23,308
当期変動額合計	△8,100	23,500	15,400	△210	8,117	△425,516
当期末残高	—	22,727	22,727	10,842	26,684	3,536,213

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	291,002	△314,937
減価償却費	121,945	131,792
減損損失	13,753	217,324
投資有価証券評価損益(△は益)	—	215,799
固定資産圧縮損	30,971	—
のれん償却額	6,651	6,651
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△317	19,594
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,788	△11,220
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	11,624	8,993
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△9,001	△8,653
受取利息及び受取配当金	△9,218	△9,788
為替差損益(△は益)	△1,885	△2,172
売上債権の増減額(△は増加)	73,585	△106,209
棚卸資産の増減額(△は増加)	63,342	△9,342
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△7,444	△24,418
仕入債務の増減額(△は減少)	△28,505	48,779
未払消費税等の増減額(△は減少)	△15,364	△40,278
未払費用の増減額(△は減少)	43,196	△41,862
未払金の増減額(△は減少)	△2,532	—
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,557	△11,880
その他	△29,303	35,005
小計	552,729	103,175
利息及び配当金の受取額	10,359	10,291
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△16,938	△90,146
営業活動によるキャッシュ・フロー	546,151	23,320
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	408	—
有価証券の償還による収入	216,399	—
投資有価証券の取得による支出	—	△98,761
有形固定資産の取得による支出	△45,841	△87,986
無形固定資産の取得による支出	△144,700	△344,774
保険積立金の解約による収入	—	18,590
保険積立金の積立による支出	△1,225	△881
敷金及び保証金の差入による支出	△65,312	△13,400
その他	393	193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39,878	△527,021

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	51,970	—
新株予約権付社債の発行による収入	1,000,000	—
転換社債の償還による支出	△1,019,900	—
自己株式の取得による支出	—	△87
配当金の支払額	—	△96,925
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,070	△97,013
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,244	24,926
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	543,587	△575,787
現金及び現金同等物の期首残高	3,349,968	3,893,554
現金及び現金同等物の期末残高	3,893,554	3,317,767

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 5社(前連結会計年度 6社)
- ・主要な連結子会社の名称 株式会社ツーフाइブ  
株式会社アールフォース・エンターテインメント  
上海希艾維信息科技有限公司

連結子会社でありました株式会社ウェブテクノロジーは、2021年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当連結会計年度期首より連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
上海希艾維信息科技有限公司	12月31日

連結計算書類の作成にあたっては、次のとおりであります。

上海希艾維信息科技有限公司については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高及び当期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

また、収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、前連結会計年度及び当連結会計年度より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当連結会計年度の財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループは、当社及び連結子会社5社(※1)で構成されており、主に「CRIWARE® (シーアールアイウェア)」及び「OPTPiX (オプトピクス)」というブランドでソフトウェア製品の許諾販売を行っております。また、許諾販売に関連する受託開発や音響制作、ゲーム開発・運営等も行っております。

各セグメントの事業内容と主要な関係会社は以下のとおりであります。

(ゲーム事業)

主にゲーム業界向けに、ゲーム開発をスムーズかつ効率的に行うための音声・映像関連ミドルウェア(※2)の提供や、画像最適化ソリューションの提供、音響制作、ゲーム開発・運営等を行っております。

取り扱う主な会社：当社、株式会社ツーフাইブ、株式会社アールフォース・エンターテインメント、上海希艾維信息科技有限公司

(エンタープライズ事業)

ゲーム事業で培った音声・映像関連の技術を活かし、主にゲーム業界以外の業界向けに、音声・映像関連ミドルウェアやソリューションの提供、関連する受託開発等を行っております。特にモビリティ機器やカラオケ機器、家電・IoT機器などの組込み分野や、Web動画市場やオンラインイベント市場などの新規分野に注力しております。

取り扱う主な会社：当社

※1 株式会社ウェブテクノロジーは、2021年10月1日付にて、当社と合併いたしました。その結果、連結子会社は5社となっております。

※2 ミドルウェアとは、ハードウェアやOSと、アプリケーションソフトウェアとの中間(ミドル)に位置するソフトウェアをいいます。ミドルウェアは、ハードウェアやOSの特性を押さえながら違いを吸収し、その上で実行されるアプリケーションソフトウェアの動作や開発をスムーズにし、クオリティの向上、開発工数の削減、開発期間の短縮、開発難易度の低減などの効果を生みます。また、アプリケーションを多くのプラットフォームに展開しやすくし、顧客のビジネス拡大にも貢献します。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

資産及び負債等に関する情報は経営資源配分及び業績評価の中心となる情報として取り扱っていないため、開示を省略しております。なお、償却資産の減価償却費は事業セグメントに配分しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,155,398	737,152	2,892,550	2,892,550
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,155,398	737,152	2,892,550	2,892,550
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	324,464	△40,000	284,463	284,463
その他の項目				
減価償却費	56,386	65,559	121,945	121,945
のれんの償却額	6,651	—	6,651	6,651

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			連結損益計算書 計上額
	ゲーム事業	エンター プライズ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,164,074	676,822	2,840,897	2,840,897
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,164,074	676,822	2,840,897	2,840,897
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	153,762	△56,338	97,424	97,424
その他の項目				
減価償却費	69,817	61,974	131,792	131,792
のれんの償却額	6,651	—	6,651	6,651

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産額	720.58円	641.16円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	36.71円	△62.23円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	36.56円	—

(注) 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
(1) 1株当たり当期純利益		
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	199,702	△339,600
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益又は 普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(千円)	199,702	△339,600
普通株式の期中平均株式数(株)	5,438,866	5,456,791
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	22,214	—
(うち転換社債(株))	(—)	—
(うち新株予約権(株))	(22,214)	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(注) 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。